

除草剤アリルオキシアルカノエート系、グリホサート及びグルホシネート耐性ダイズ 44406 系統（食品）に係る食品健康影響評価について

1. 経緯

遺伝子組換えダイズ「除草剤アリルオキシアルカノエート系、グリホサート及びグルホシネート耐性ダイズ 44406 系統（以下「44406 ダイズ」という。）」については、平成 26 年 3 月 4 日付けで遺伝子組換え食品の安全性審査の申請を受理したことから、食品安全基本法（平成 15 年法律第 48 号）第 24 条第 1 項の規定に基づき、食品安全委員会に食品健康影響評価を依頼するものである。

2. 評価依頼品種の概要

44406 ダイズは、アリルオキシアルカノエート系除草剤、除草剤グリホサート及び除草剤グルホシネートに対する耐性を付与するために、改変 *aad-12* 遺伝子、*2mepsps* 遺伝子及び改変 *pat* 遺伝子を導入したものである。

グラム陰性桿菌である *Delftia acidovorans* MC1 株由来の改変 *aad-12* 遺伝子によって産生される改変 AAD-12 タンパク質は、アリルオキシアルカノエート系除草剤を除草活性のない化合物に変換することにより、植物にアリルオキシアルカノエート系除草剤に対する耐性を付与する。

トウモロコシ由来の *2mepsps* 遺伝子によって産生される 2mEPSPS タンパク質は除草剤グリホサートの影響を受けず、本剤の存在下でも活性を示すため、除草剤グリホサートに対する耐性を付与する。

グラム陽性放線菌である *Streptomyces viridochromogenes* 由来の改変 *pat* 遺伝子によって産生される PAT タンパク質は、除草剤グルホシネートを除草活性のない化合物に変換することにより、植物に除草剤グルホシネートに対する耐性を付与する。

3. 利用目的及び利用方法

44406 ダイズの食品としての利用目的や利用方法は、従来のダイズと相違はない。

4. 諸外国における申請等

申請国	申請・確認年月	申請先
オーストラリア/ ニュージーランド	2013 年 4 月承認	オーストラリア・ニュージーランド食品基準局 (FSANZ)
カナダ	2013 年 6 月承認	カナダ保健省 (HC)
米国	2013 年 12 月確認終了	米国食品医薬品局 (FDA)